

木曾ねずこ下駄

～ねずこ下駄の技術習得と発信～

研究目的

ねずこ下駄の歴史学習及び制作技術学習を通してねずこ下駄の良さを調査研究し、多くの方にPRすることで、技術の伝承や普及、発展に向けた取り組みを目的とする。

活動内容

◆事前学習

☞かみむら靴店、三村木工での事前学習



かみむら靴店では歴史や下駄の種類のお話や、鼻緒をすげる様子を見学しました。
三村木工では、実際に下駄を制作している様子を見学しました。

◆下駄制作

☞かみむら靴店、三村木工で下駄制作



東筑摩郡朝日村にある三村木工へ行き一人一足下駄の制作を行いました。その後、日義にあるかみむら靴店へ行き、鼻緒をすげ、下駄が完成しました！

◆SNSでのPR活動

☞Instagramを使用



活動の内容やねずこ下駄の魅力を発信することで、木曾の人だけでなく日本全国の方に知ってもらうことを目的として活動しています。

PR

SNSの発信ではアカウントを作成しましたがうまく発信をすることができませんでした。

◆ポスター作成&掲示の提案

☞かみむら（日義）、道の駅木曾福島、海老屋（福島）よし彦（福島）→ポスター掲示提案

提案内容

- ・ポスター制作を行い、かみむら（日義）道の駅木曾福島、海老屋（福島）よし彦（福島）ポスター掲示



まとめ

- ・SNSでのPRにはInstagramやTwitterを多用したが、検索ワードが重要だと考える。「ねずこ」はもちろんであるがその他全く関係のないキーワードからねずこ下駄がヒットするキーワードを増やすことが課題として残りました。次年度以降、木曾の伝統工芸品をより多くの方に知ってもらうため拡散、注目を浴びるようなワードを研究していってほしい。ポスターについては実際に効果があるのかまだ明確ではないので、今後の効果に期待しています。

木曾の、良いものを。



木曾ねずこ下駄

水に強く、軽いのに硬くて丈夫。
さらさらとした履き心地とねずこのいい香り。

木曾が誇る工芸品、ねずこ下駄を
暮らしに取り入れてみませんか？

下駄は足裏のツボを刺激して内蔵を健康にするほか、外反母趾の予防にも効果的です。
そして、暑い夏には、素足で触れる下駄の心地よさが心も健康にしてくれます。
夏のサンダル代わりに、室内履きに、もちろん普段履きにも。

・ねずことは

ひのき、さわら、こうやまき、あすなろと並ぶ木曾五木のひとつです。
高い標高の木曾で育ったねずこは、木目が詰まっているため堅く、
軽く、水に強い。木目が美しく下駄に最適な素材として知られています。



「ねずこ下駄の研究」

～ねずこ下駄の技術習得と発信～

2022年度 長野県木曽青峰高等学校 インテリア科
青木さくら 佐幸佑香 金子温那 藤懸真帆

1. 研究の動機及び目的

先輩方は木曽の伝統産業である「漆」「お六櫛」「桶」の研究を通して、後世に残す取り組みや、PRを行ってきました。

そこで私たちは、まだ研究がされていなかった「ねずこ下駄」に着目し、ねずこ下駄の特徴、歴史、製作技術を知り、多くの方にPRすることで普及発展に向けた取り組みをしたいと考えました。

2. 研究内容

- ①インターネットや文献を用いた調査・学習
- ②販売店を訪問し、ねずこ下駄の特徴と歴史学習
- ③作業工場の見学
- ④ねずこ下駄生地製作
- ⑤鼻緒すげ
- ⑥SNSでのPR活動
- ⑦ポスターによるPR活動

3. 活動報告

①インターネットや文献を使った事前学習

見学に行く前にネットや本(木の百科)を使い、木曽のねずこ下駄および下駄の歴史や下駄種類、製作過程、他の下駄との違いを調べました。

②販売店を訪問し、ねずこ下駄の特徴と歴史学習

・ねずこ下駄を販売している木曽町日義にある「靴とバックかみむら」店を訪問。社長である上村三枝子さん、店長の杉澤仁海さんにお話を伺うことができました。

・ねずこはヒノキよりも水に強く、消臭効果がある。また殺菌効果化はヒノキ同等である。40年前木曽ブームがあり飛ぶように売れたことなど、インターネットや文献では知りえなかった歴史や特徴について知ることができました。

・実際に下駄に鼻緒を「すげる」様子を見学させていただきました。



③作業工場の見学

・朝日村にある全国で唯一ねずこ下駄の製作をしている三村木工さんへ伺い、代表の三村幸凡さんに製作工程の説明および、実際に製作している様子を見学させていただきました。

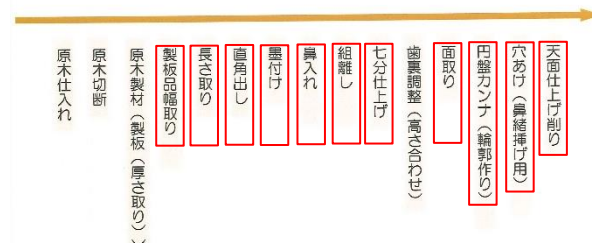


④ねずこ下駄生地製作

・三村木工所にて三村さんにご指導していただき、一人一足ずつ実際にねずこ下駄を制作しました。

ねずこ下駄の製造工程

ねずこ下駄が出来るまで



ねずこ下駄の製造工程

ねずこ下駄が出来るまで



- ・全行程の内、□部を実際に行いました。
- ・学校にはない特別な機械などで少し難しく、身をもって体験することができ、特殊技術や微妙な角度など、匠な技術が盛り込まれていること知りました。一つのものを製作するまでには歴史と伝統の技があることを改めて知ることができました。



⑤鼻緒すげ

- ・次に「靴とバックかみむら」にて店長の杉澤仁海さんにご指導いただき、三村木工さんにて作製した下駄に鼻緒を「すげる」体験をしました。
- ・実際に体験してみて、かなり力とコツが必要で特別な結び方及びその人に合わせた締めぐあいなど調整があることを知り、作ることの大変さを実感しました。
- ・製作をしてみて他の材と比べて特に消臭効果、殺菌効果があり、堅い、水に強い、気乾比重が小さく軽いといった特徴を持つねずこ下駄の素晴らしさを強く伝えたいと思いました。



⑥SNSを使ったPR活動

・Instagramを使って活動の様子やねずこ下駄の魅力を発信することで、木曽の人だけでなく全世界の方に知ってもらうことを目的として活動しました。アカウント [kisojinonezuko](#) です。

このことにより、PR効果が表れたのかの結果は得られていませんが、SNS上でアップしている以上、いずれヒットすると考えています。

⑦ポスターによるPR活動

SNSでのPR活動のほかにはポスターを作製し、旧木曾管内でねずこ下駄の販売を行っている店舗・かみむら（日義）道の駅木曾福島・よし彦（福島町内）へ直接購入の方々向けに各PR用のポスターを制作し、掲示してもらいました。



[かみむら靴店]

[よし彦]

6. まとめ・考察

木曽の伝統産業の一つについて学習及び製作体験ができました。大変貴重な体験であったと同時にねずこの良さを知ることができ、その為より多くの方にねずこ下駄の良さを知ってほしいと強く思いました。

中間発表の意見に「下駄製作の体験イベント実施」案をもらいました。製作実習を実体験してきた私たちは、「危険でムリ」と判断しました。しかし、下駄製作体験ができれば、観光など別の観点でのPR方法にもなり会社としての営利にも繋がることもでてくると考え、無理だと勝手に判断せず三村木工さんに提案をします。

SNSでのPRにはInstagramやTwitterを多用したが、検索ワードが重要だと考えたため、「ねずこ」はもちろんであるが、その他全く関係のないキーワードからねずこ下駄がヒットし拡散に結びつくような研究を模索することを次年度以降の課題として提案します。

ポスターについては店舗掲示をしていただきました。購入者にも渡してくださるようです。また外国人観光客用に英語バージョンの依頼を受けました。実際のPR効果はわかりませんが、今後期待しています。

木曽の伝統産業を後世の残す取り組みを今後も続けてほしいと願っています。